

主を求めて生きよ

アモス書5章

あなたがたはわたしを求めよ、そして生きよ。ベテルを求めるな、ギルガルに行くな。ベエルシバにおもむくな。ギルガルは必ず捕えられて行き、ベテルは無に帰するからである。(4、5)

アモスはイスラエルの滅びを、結婚を前にして死んだ乙女にたとえて悲しみの歌を歌います。その聴衆は喜びをもって礼拝に集まつてきた人々でした。

元気な人々に向かつて、「あなたがたはもはや死んでいるようなものだ」というのです。さらに主は語りかけます。「あなたがたはわたしを求めよ、そして生きよ」と。礼拝者たちは、自分たちは主を求めて礼拝し、それによつて生かされていると思つていました。ところが神の目から見れば、彼らの礼拝は形ばかりで内実を失い、靈的には死んでいるといふのです。ご自身を求めるように告げられた主は、「ベテルを求めるな、ギルガルに行くな。ベエルシバにおもむくな」と命じられました。それらはイスラエルの民にとつては過去に大きな恵みが注がれた聖所であり、人々は熱心にそこを訪れて犠牲をささげていました。けれども今、主はそのような過去の恵みに固執し、それによつて命を得ようとするのではなく、今ここに生きておられる主を求めるようにと勧められたのです。どこで礼拝するかが重要なのではなく、今ここに生きて働いておられる神に出会うことが、神の民が生かされる道なのです。

わたしたちの毎週の礼拝が形ばかりのものとなることのないように、今も生きておられる主と確かに出会い、その主によつて生かされる礼拝をささげたいものです。